

尚美学園大学芸術情報研究 第22号 論文

中等科音楽における教育実習の現況と課題 —教育実習“振り返りシート”の考察を通して—

宮本 憲二

Status Quo and Emerging Problems in Practice Teaching of Music at Secondary Schools —By examining the practice teaching reviewing sheet—

MIYAMOTO Kenji

Abstract

It is not too much to say that ‘Practice Teaching’ is another word for ‘evaluation from the outside.’ That is because, for trainee teachers, their skills that they learned at the teacher-training course of the university are tested at secondary schools, and on the other hand, universities are inquired upon the quality of their teacher-training course.

This essay is to analyze and figure out both the problems of the existing conditions of practice teaching at secondary schools, and the way how the teacher-training course of the universities teach their students Subject Education of Music by using practice teaching reviewing sheet which Shobi University's Department of Music Expression, Faculty of Informatics for Arts provided.

This essay showed us that, there were differences in teaching between practice teaching at high schools and junior high schools, difficulties in understanding and handling students during their practice teaching, necessarily of preparation before the practice teaching, problems in teaching other subjects besides music, and attitudes of trainee teachers during their practice teaching.

Key Word

Practice Teaching, Music Lessons at Secondary Schools, Subject Education

[要約]

教育実習は、学生にとっては履修した教職科目に関する学習成果が学校という実践の場で問われ、大学にとっては、教育実習生を通してその大学における教職課程履修生の指導に対して、外部から評価されることになるといっても過言ではない関門といえよう。

本研究は、尚美学園大学芸術情報学部音楽表現学科における教職課程履修生の教育実習「振り返りシート」の記述内容等の考察を通し、中等科音楽における教育実習の現況と課題を明らかにするとともに、今後の教科教育法等における指導のあり方や方向性について、分析を加えながら述べるものである。研究の成果として、中学校と高等学校における教育実習内

容の差異、生徒理解・生徒指導における教育実習上の課題、教育実習前に取り組ませておきたい教材や資料作成の方途、音楽科以外の教科等における指導課題、教育実習期間中の実習生の生活実態等が挙げられる。

[キーワード]

教育実習、中等科音楽、教科教育

1 はじめに

教職課程を履修している学生の多くは、音楽の教員になることを目指し学習を積み重ねるいっぽう、教職以外の職種に就くことを思い描いている学生も多く、これらの学生は自分の夢の実現と音楽科教員免許状取得という二本立てでの進路を考えている。高等教育機関において「声楽」や「器楽」「作曲」等を自身の研究分野としながらも卒業後は、中等科あるいは初等科等における音楽教員を目指す学生が多いことは確かなことである。

中学校・高等学校の音楽科教員免許状取得にあたっては、教員養成系大学のほかにも課程認定を受けている一般大学の芸術学部や音楽学部等、多くの大学で必要科目を履修することが可能である。教員免許状を取得したいと考える学生は、自身の専攻する分野の研究と並行して、卒業までの期間に教職に必要な科目を履修し単位を修得していく。

教職課程履修の動機は、学生が置かれた状況や環境により実に様々で、必ず教員免許状を取得するよう保護者等から厳しく諭され教職科目を履修している学生もいる。そのため、指導者は個々の学生の気質や特性等に十分配慮しながら指導を進めることとなる。

本稿は、2011年度及び2012年度に尚美学園大学芸術情報学部音楽表現学科（以下、本学）の学生が教育実習を行った際に記述した「振り返りシート」の内容を考察し、教育実習の現況と課題を明らかにするとともに、教職課程における教科教育法等の指導の今後について論じるものである。

2 研究の背景と問題点

戦前の中等学校（旧制中学校や高等女学校）、師範学校等における音楽担当教員の多くは、東京音楽学校（現東京藝術大学音楽学部）甲種師範科や文部省の無試験検定試験認可を受けた学校（東京高等音楽院（現国立音楽大学）や武蔵野音楽学校（現武蔵野音楽大学））の出身者または文部省中等学校教員検定試験合格者等に限られていた。

学校制度や免許法、指導法や授業運営、それに伴う教材等は時代の趨勢とともに変化して行くものであるが、教育実習についても戦前はごく一部の限られた学校での実施にとどまっており、盛んに論議されるようになるのは戦後の学制改革以後である。

戦後、法整備等が整えられ、音楽科の教員免許状についても国・公・私立、多くの大学で教員免許状取得に必要な単位に係る科目が開設され、学生が必要科目の単位を修得し、定められた書類を整え関係機関に申請し、不備等がなければ教員免許状取得が可能となった。戦後半世紀以上が経った現在、教職課程について種々様々な面からその課題等が論議され、「教育実習」については、中央教育審議会において以下のような具体的な答申¹⁾がある。特に本

研究と関連すると思われる箇所について下線を入れた。

1. 教職課程の質的水準の向上

(3) 教育実習の改善・充実 ―大学と学校、教育委員会の共同による次世代の教員の育成―

課程認定大学は、教育実習の全般にわたり、学校や教育委員会と連携しながら、責任を持って指導に当たることが重要である。

実習内容については、個々の学生の履修履歴等に応じて、内容の重点化も考慮する必要があるが、その場合でも、十分な授業実習の確保に努めることが必要である。

大学の教員と実習校の教員が連携して指導に当たる機会を積極的に取り入れることが必要である。また、実習校においては、基本的に複数の教員が協力して指導に当たることが必要である。

大学においては、教育実習の円滑な実施に努めることを、法令上、明確にすることが必要である。また、履修に際して満たすべき到達目標をより明確に示すとともに、事前に学生の能力や適性、意欲等を適切に確認することが必要である。教育実習に出さないという対応や、実習の中止も含め、適切な対応に努めることが必要である。

いわゆる母校実習については、できるだけ避ける方向で、見直しを行うことが適当である。

各都道府県ごとに、教育実習連絡協議会を設置し、実習内容等について共通理解を図るとともに、実習生を円滑に受け入れていく具体的な仕組みについて検討することが必要である。

○教育実習は、学校現場での教育実践を通じて、学生自らが教職への適性や進路を考える貴重な機会であり、今後とも大きな役割が期待される。教育実習は、課程認定大学と学校、教育委員会が共同して次世代の教員を育成する機会であり、大学は、教科に関する科目の担当教員と教職に関する科目の担当教員が共同して、教育実習の全般にわたり、学校や教育委員会と連携しながら、責任を持って指導に当たることが重要である。

また、各大学は、教職課程の全体の中で、体系的な教育実習の実施に留意することが必要である。

○(2) で述べた教職実践演習（仮称）を新設することとする場合、教育実習と当該科目との関係を整理することが必要である。この点については、両者は趣旨・目的が異なるものの、将来教員になる上で、何が課題であるのかを自覚する機会として共通性があることや、履修時期が近接していること等から、内容や指導の面での関連性や連続性に留意して、実施することが適当である。具体的には、教育実習やその後の事後指導を通して明らかになった課題を教職実践演習（仮称）で重点的に確認したり、必要に応じて補完的な指導を行うなどの工夫を図ることが適当である。

○教育実習における実習内容は、学校における教育活動全体を視野に入れることが基本であるが、学生の履修履歴や免許状の種類に応じて、例えば、授業実習の比重を高めたり、学級経営の比重を高めるなど、実習内容を重点化することも考慮する必要がある。なお、その場合でも、教科指導の実践は教育実習の最も重要な内容であることから、課程認定大学は、学校や教育委員会と協力しながら、十分な授業実習の機会の確保に努めることが必要である。

○教育実習においては、課程認定大学と実習校の協力により、授業案を作成したり、教材研

究の指導を行うなど、大学の教員と実習校の教員が連携して指導に当たる機会を積極的に取り入れることが必要である。また、実習成績の評価についても、適切な役割分担の下に、共同して行うことが適当であるが、その場合には、実習校により評価にばらつきが生じないよう留意することが必要である。

○実習校においては、基本的に複数の教員が協力して指導に当たることとし、また、当該教員については、教育実習担当教員として、校務分掌上、明確に位置付けるなど、責任を持って実習生を指導する校内体制を構築することが必要である。

○教育実習は、課程認定大学の教職課程の一環として行われるものであり、各大学における適切な対応を担保するため、課程認定大学は、実習校の協力を得て、教育実習の円滑な実施に努めることを、法令上、明確にすることが適当である。

○課程認定大学は、教員を志す者としてふさわしい学生を、責任を持って実習校に送り出すことが必要である。各大学においては、これまでも、教育実習の履修に当たって、あらかじめ履修しておくべき科目を示すなどの取組が行われてきたが、今後は、履修に際して満たすべき到達目標をより明確に示すとともに、それに基づき、事前に学生の能力や適性、意欲等を適切に確認するなど、取組の一層の充実を図ることが必要である。

また、必要に応じて補完的な指導を行うとともに、それにもかかわらず、十分な成果が見られない学生については、最終的に教育実習に出さないという対応も必要である。実習開始後に学生の教育実習に臨む姿勢や資質能力に問題が生じた場合には、課程認定大学は速やかに個別指導を行うことはもとより、実習の中止も含め、適切な対応に努めることが必要である。

○一般大学・学部については、できるだけ同一都道府県内をはじめとする近隣の学校において実習を行うこととし、いわゆる母校実習については、大学側の対応や評価の客観性の確保等の点で課題も指摘されることから、できるだけ避ける方向で、見直しを行うことが適当である。

一方、学生が自らが教職に就くことを希望する出身地の学校で教育実習を行うことは、早い段階から地域の教育等を知る上で意義があることから、このような積極的な理由から、母校をはじめとする出身地の学校で実習を行う場合については、柔軟に対応することが適当である。ただし、このような場合でも、大学と実習校とが遠隔教育的な方法を工夫して連携指導を行うなど、大学が教育実習に関わる体制を構築するとともに、実習校側も適切な評価に努めることが必要である。

○教員養成系大学・学部については、附属学校における実習が基本となるが、一般の学校における実習も有意義であることから、各大学において、適切に検討することが必要である。

○教育実習を円滑かつ効果的に実施するため、各都道府県ごとに教員養成系大学・学部や教育委員会はもとより、一般大学・学部や公立私立学校、知事部局の代表等の幅広い関係者の参画を得て、教育実習連絡協議会を設置することが必要である。こうした関係機関の協議の場においては、実習内容や指導方法、実習生に求められる資質能力などについての共通理解を図るとともに、相互の適切な役割分担と連携協力により、各地域において実習生を円滑に受け入れていく具体的な仕組み（例えば、実習生の受入れに当たっての調整や、実習に係る

人的・財政的措置等)について検討することが必要である。

3 研究内容

3. 1 研究の動機

多くの大学では、学生が教育実習に赴く前年の春学期ないしは秋学期から教育実習指導（以下、実習指導）をスタートするケースが多い。本学においても、学生たちが教育実習に赴く前年の秋から実習指導を開始し、引き続き翌年の春学期においても実習指導を行い、その年の5月頃から11月頃までに2～4週間の教育実習を終えるというのが現状である。

教育実習期間中の記録簿として他大学同様に本学でも「教育実習日誌」を作成している。学生は実習前・実習期間中・実習後の必要な機会や場面ごとに、本日誌の項目に沿って記述する。

円滑な教育実習に資するということが教育実習日誌記載の大きな目的であり、教育実習期間中の教科指導や生徒理解・生徒指導力等の向上に役立てること、将来教壇に立つ際に教育実習期間中の成果と課題を振り返り、その後の指導に生かすというような意味も多く含まれる。

しかし、教育実習期間中の音楽科授業の詳細や音楽科授業以外の指導状況（例えば、生徒指導、道徳指導、特別活動等）、教育実習期間中の生活実態等を振り返り、総括して「教育実習日誌」に記載するのは難しい。

そこで、これらに関する項目設定を行い、その項目に沿って、具体的に学生たちが記入することにより、教育実習に赴いた学生たちが日々の教科指導において具体的にどのような教材に取り組んだのか、また音楽科以外の科目等において、どのような指導を行ったのか、学生たちはどのような思いをもって教育実習に臨み、何を得て大学に戻って来たのか等を明らかにしたいと考えた。

3. 2 研究方法

○対象：2011年度及び2012年度、中学校・高等学校に教育実習に赴いた学生58名

○期間：主に教育実習期間中

○データ：「教育実習振り返りシート」の内容

3. 2. 1 「教育実習振り返りシート」の検討

「教育実習日誌」では、主に「7 実習の記録」という欄に実習生が日々の教科指導や生徒指導等についての内容を毎日記述する。その後、実習校の指導教官に提出し、批評や助言等を文書で仰ぐというものである。

ほかにも、教育実習期間中に行った授業については、「8 実習授業の記録」、「9 研究授業の記録」、「10 研究授業の記録（実施後）」と題したページに実習生が記述する。

「教育実習振り返りシート」では、主に「教育実習日誌」にない項目や「教育実習日誌」の項目を総括するといったような形で選択肢と自由記述での回答を求めた。表1が「教育実

習日誌」と「教育実習振り返りシート」との項目を対比し、まとめたものである。

表1 「教育実習日誌」と「教育実習振り返りシート」の項目

「教育実習日誌」の項目	「教育実習振り返りシート」の項目
1 教育実習の心得 2 実習生出勤・勤務簿 3 実習校の現況 4 所属学年の目標・学級目標・時間割 5 講話の記録 6 担当教諭との打合せ記録 7 実習の記録 8 実習授業の記録 9 研究授業の記録 10 研究授業の記録（実施後） 11 教育実習を終えて	1 教育実習全般を振り返って (1) 実習の大変さ、実習の期間等 (2) 自身の実習態度を振り返って (3) 生徒理解について (4) 生徒指導を振り返って (5) 自己啓発について (6) 「道徳」授業について、その内容・時数等 (7) 特別活動等を振り返って (8) 課外活動等を振り返って 2 音楽科の授業を振り返って (1) トータル授業時数 (2) 授業の印象 (3) 実習授業・研究授業前の取組 (4) 学年別の授業取組状況 (5) 研究授業の内容 (6) 教育実習前に取り組んでおきたい事柄 (7) 教育実習前後での教職に対する意識 (8) 後輩へのメッセージ 3 教育実習期間中の生活状況 (1) 出勤時間 (2) 退勤時間 (3) 睡眠時間 (4) 通勤時間 (5) 実習日誌作成に要した時間等

3. 2. 2. 「教育実習振り返りシート」の実際

上記3. 3を検討し、作成したものが表2の「教育実習振り返りシート」である。シートはA4版9枚であるが、本稿では紙面の都合上、縮小掲載した。

表 2-1

教育実習を振り返って
(2012年度)

尚美学園大学芸術情報学部
音楽表現学科
コース名・専攻楽器等【 】
学籍番号【 】
氏 名【 】

- 1 -

表 2-2

都道府県名〔	都・道・府・県〕	私立・公立の別〔	立〕
教育実習の校種〔小学校・中学校・高等学校〕			
教育実習校名〔	立		学校〕
教育実習の期間〔月 日（曜日）～ 月 日（曜日）まで〕			
所属した学年〔			

表 2-3

※下の 2 つについては、A・・・よくできた、B・・・できた、C・・・努力が必要を A、B、C で
（ ） に記入してください。

2 自身の教育実習態度について

① 遅刻・早退等なく、熱心に教育実習に取り組むことができた。（ ）

② 指導教員と適切な言葉遣いできた。（ ）

③ 学校行事・学年行事・集会等に積極的に参加できた。（ ）

④ 他の実習生と共通理解を図り、協力して教育活動に取り組むことができた。（ ）

3 生徒理解について

① 生徒の行動や言動等を観察し、生徒への理解を深めようとした。（ ）

② 生徒と接する機会をできるだけ多くつくり、生徒の理解に努めようとした。（ ）

③ 生徒の個性や個性から、生徒の特性や個性、それぞれの違いを理解できた。（ ）

④ そのときの状況や生徒の状況等を判断し、適切に対応できた。（ ）

⑤ 生徒の話を最後まで聞き、気持ちを受け止めようとした。（ ）

4 生徒指導について

① 学校の規則や決まりを理解し、それぞれの生徒に応じた指導ができた。（ ）

② 朝の会、終りの会等で、適切な指導ができた。（ ）

③ 道目標や一日のめあて等を考慮して生徒指導に取り組むことができた。（ ）

④ 昼食時、生徒の服装や配膳、食事指導に努めた。（ ）

⑤ 自ら進んで清掃や装飾活動に努め、生徒にも適切な指導指導ができた。（ ）

5 自己啓発について

① 他の学生の授業や他教科の先生の授業等に進んで参観したりに参加したり、さまざまな方面から指導の在り方を積極的に学ぶことができた。（ ）

② 担当教諭からの指導や他の実習生からの批評・意見に対して素直に耳を傾けることができた。（ ）

③ 授業の反省、分析から問題点を把握し、次の改善策や課題を見つけることができた。（ ）

④ 教育実習の記録を日ごとに、定められた日時に提出することができた。（ ）

6 「道徳」の授業について

「道徳」の授業を行った学年・数教 [年 時間]

「道徳」の授業で指導した内容や使用した資料等

内 容
資料名等

- 3 -

表 2-4

7 ホームルーム（ロングの学活）や「総合的な学習の時間」等で指導した内容について

8 部活動やサークル（同好会）等に関して一番印象に残っているのはどのようなことでしたか

Ⅱ 「音楽科」の授業について

1 「音楽」の授業を行った学年の授業時数はそれぞれ何時間ですか。

[1年→ 2年→ 3年→]

2 「音楽」の授業で一番印象に残っているのはどのようなことですか。

表2-9

Ⅲ 教育実習期間中の生活全般を振り返って			
1 学校へ出勤した時刻は、おおむね次のどれに当てはまりますか。			
ア	7時半～7時45分の間	イ	7時45分～8時の間
ウ	8時～8時15分の間	エ	その他（ ）
2 その日の勤務を終え、学校を出た時刻は、おおむね次のどれに当てはまりますか。			
ア	17時半～18時の間	イ	18時～18時半の間
ウ	18時半～19時の間	エ	19時～19時半の間
オ	その他（ ）		
3 実習期間中の睡眠時間について、おおむね次のどれに当てはまりますか。			
ア	9時間～10時間	イ	7時間～8時間
ウ	5時間～6時間	エ	その他（ ）
4 通勤について、次の①、②について答えて下さい。			
①	通勤手段は主に何でしたか。（例：徒歩とバス／ ）		
②	通勤時間は、おおむね次のどれに当てはまりますか。		
ア	30分以内	イ	30分～1時間
ウ	その他（ ）		
5 教育実習日誌の作成は主にどこで行いましたか。			
ア	勤務先の学校	イ	自宅
ウ	その他（ ）		
6 教育実習日誌を書くのにかった時間は、トータル次のどれに当てはまりますか。			
ア	30分以内	イ	30分～1時間
ウ	1時間～1時間半	エ	その他（ ）
7 その日書き上げた教育実習日誌は担当の先生にいつ提出しましたか。			
ア	その日の夕方	イ	その日の夜
ウ	明るる朝	エ	その他（ ）
8 研究授業の学習指導案作成にかかった時間は、トータルで次のどれに当てはまりますか。			
ア	1時間～1時間半	イ	1時間半～2時間
ウ	2時間～2時間半	エ	2時間半～3時間
オ	その他（ ）		
9 研究授業の学習指導案は、指導の先生に、いつ提出しましたか。			
ア	研究授業前日の昼	イ	研究授業前日の夕方
ウ	研究授業前日の夜	エ	当日の朝
オ	その他（ ）		

- 9 -

4 「教育実習振り返りシート」回答結果

「教育実習振り返りシート」の各項目における回答結果を以下に示す。数値については小数点第2位で四捨五入、自由記述については似通った回答、同様の回答については割愛した。また、必要に応じて年度別や校種別に分けての記述を行った。無回答者もいるため、調査対象人数や割合と合致していない場合がある。

I 教育実習全般について

1 「教育実習」全般を振り返って

	ア 大変だった 70.7% (41)
	(理由)
	【音楽科の授業に関して】
	・ 授業準備に追われた。
	・ 授業の進め方や指導案作成に時間がかかった。
	・ 合唱祭で取り組む曲ということで知らない曲を次々と渡されそれをこなすのが大変だった。
	・ 生徒に説明がうまく伝わらなかった。

① 教 育 実 習 は 予 想 よ り	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の訂正やピアノ、歌の練習に追われた。 ・ピアノ、歌の練習に時間がとれない。 ・大学での模擬授業と違い失敗したら誰も助けてくれない緊張感があった。 ・教材研究やプリント作成等、自宅での準備が結構多かった。 <p>【音楽科の授業以外に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気の休まる時間がなく、帰宅してからも授業準備に追われた。 ・やらなければならないことが多かった。 ・土日も含めてほとんどプライベートな時間がなかった。担当クラスの生徒の名前を覚えるのに一週間かかった。 ・生徒の個別日誌を見てコメントを書くのに空き時間はそのことで手一杯だった。 ・実習日誌を書くのに時間がかかり、大変だった。 ・授業以外でやることが多い。 ・学校の敷地内の環境美化等、肉体的な労働が多かった。 ・学級の雰囲気にも馴染むのが大変だった。 ・臨機応変に生徒に対応することが大切だとわかった。 ・慣れてくると言うことを聞かない生徒が増えてくるので大変だった。
	イ ふつう 20.7% (12)
	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想より楽だったことと全く予想外のこととが半々くらいだったので、トータルするとふつう。 ・同じ教材で複数クラスの授業ができたことと、生徒が素直だった。 ・自分が通っていた頃よりもはるかに落ち着いた校風が変わっていた。
	ウ 楽だった 8.6% (5)
	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容をリピートできることが多かった。 ・音楽科の実習生が4人おり、しかも専門分野が色々だったので、相談したり、分担したりして進めることができた。 ・気力体力の両面で余裕を持ちながら実習できた。 ・担当教員が良心的な先生で比較的自分のペースでやることができた。
	ア 楽しかった 75.9% (44)
	<p>(理由)</p> <p>【音楽に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽部の存在。 ・生徒の反応がよく、授業しやすい環境だった。

② 教 育 実 習 は 予 想 よ り	<p>【音楽以外に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが成長してくれたときにやり甲斐を感じた。 ・先生や生徒がとても好意的だったこと。 ・生徒とのふれあいが楽しみ。(授業の大変さ、雑務等はあまり苦にならなかった) ・生徒とコミュニケーションを取り関わり、共に成長していく過程がとても充実していた。 ・生徒と話していると嫌なことも忘れ頑張ることができた。 ・部活指導で生徒が日毎に成長していくのが感じられた。 ・生徒から頼られたり感謝されたりしたときの喜びが大きい。
	イ ふつう 22.4% (13)
	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しいことも辛いことも同じくらいあったから。 ・部活に行けなかった。 ・指導案作成、教材研究が大変だった。 ・生徒が言うことを聞いてくれなかったりして大変なことも多かった。 ・「やっと終わった」感が強かった。 ・予想とおり楽しくなかった。 ・授業では辛いことも・・・でも生徒がとても気さくに話しかけてくれた。
	ウ 楽しくなかった 1.7% (1)
	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌を書くのが大変だった。
③ 教 育 実 習 期 間 は	ア もっと長い期間実習を行いたかった 43.1% (25)
	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣れてきた頃に実習が終わってしまうため。(4) ・教育には中長期的な関わりが必要だと思うから。 ・もっと生徒たちと関わっていたかった。 ・もっと勉強したかった。 ・もう少し期間が長ければもっとよい授業ができたかもしれない。 ・3週目からようやく流れがつかめてくるようになるから。
	イ この程度の期間でちょうどよい 55.2% (32)
	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張感をもって行うにはこの程度の期間でよい。 ・3週間以上だと気が減入る。 ・担当の先生から毎回チェックが入り、見られているという緊張感がこれ以上長

	<p>かったら耐えられない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これで十分。 ・3週目で全てやり尽くせた気がしたのでちょうどよい。 ・これ以上だと大変。 ・学ぶことがたくさんあり、それを自分の中に取り込み消化し、今後に繋げていくという意味でこれくらいがよい。 ・もっと長くても良いと思うが、大学に戻ってきたときの授業や試験対策への影響が大きくなってしまうため3週間でよい。 ・これ以上だと体力が保たない。 ・3週間という期間だからこそ集中して実習に取り組めたような気がする。 ・音楽だと一単元を最初から最後まで教えるのがだいたい3週間なのでそれくらいがよい。
	ウ もっと短い方がよい 1.7% (1)
	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちの方が辛そうだから。

※2～5については、A・・・よくできた、B・・・できた、C・・・努力が必要で記入

2 自身の教育実習態度について

項目	回答割合(人数)	A	B	C
①遅刻・早退等なく、熱心に教育実習に取り組むことができた。		96.6% (56)	1.7% (1)	1.7% (1)
②指導者として適切な言葉遣いができた。		32.8% (19)	58.6% (34)	8.6% (5)
③学校行事・学年行事・集会等に積極的に参加できた。		77.6% (45)	20.7% (12)	1.7% (1)
④他の実習生と共通理解を図り、協力して教育活動に取り組むことができた。		74.1% (43)	19.0% (11)	6.9% (4)

3 生徒理解について

項目	回答割合(人数)	A	B	C
①生徒の行動や言動等を観察し、生徒への理解を深めようとした。		72.4% (42)	27.6% (16)	0% (0)
②生徒と接する機会をできるだけ多くつくり、生徒の理解に努めようとした。		56.9% (33)	41.4% (24)	1.7% (1)
③生徒と接する中から、生徒の特性や個性、それぞれの違いを理解できた。		67.2% (39)	32.8% (19)	0% (0)
④そのときどきの状況や生徒の状態等を判断し、適切に対応できた。		34.5% (20)	58.6% (34)	6.9% (4)
⑤生徒の話を最後まで聞き、気持ちを受け止めようと努力した。		70.7% (41)	29.3% (17)	0% (0)

4 生徒指導について

項目	回答割合(人数)	A	B	C
①学校の規則や決まりを理解し、それぞれの生徒に応じた指導ができた。		50.0% (29)	48.3% (28)	1.7% (1)
②朝の会、終わりの会等で、適切な指導ができた。		43.1% (25)	55.2% (32)	1.7% (1)
③週目標や一日のめあて等を考慮して生徒指導に取り組むことができた。		29.3% (17)	60.3% (35)	10.3% (6)
④昼食時、生徒の服装や配膳、食事指導に努めた。		44.8% (26)	34.5% (20)	6.9% (4)
⑤自ら進んで清掃や美化活動に努め、生徒にも適切な清掃指導ができた。		72.4% (42)	25.9% (15)	1.7% (1)

④については給食指導を行った学生の数値

5 自己啓発について

項目	回答割合(人数)	A	B	C
①他の学生の授業や他教科の先生の授業等に進んで参観したり参加したり、さまざまな方面から指導の在り方を積極的に学ぼうとした。		60.3% (35)	31.0% (18)	8.6% (5)
②担当教諭からの指導や他の実習生からの批評・意見に対して素直に耳を傾けることができた。		87.9% (51)	12.1% (7)	0% (0)
③授業の反省、分析から問題点を把握し、次への改善策や課題を見つけることができた。		84.5% (49)	13.8% (8)	1.7% (1)
④昼食時、生徒の服装や配膳、食事指導に努めた。		53.4% (31)	37.9% (22)	8.6% (5)

6 道徳指導について

取組時数	対象学年割合(人数)	中学 1 年生	中学 2 年生	中学 3 年生
1 時間		11.8% (4)	11.8% (4)	23.5% (8)
2 時間		5.9% (2)	0% (0)	2.9% (1)
3 時間以上		0% (0)	0% (0)	0% (0)
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を専門として現在に至った経緯をテーマとして授業を行った。 ・「強い意志」(「イチロー選手」の小6の頃の作文を教材として)。 ・「感謝」について・「理想と現実」(宮沢賢治「雨にも負けず」を素材として)。 ・「老人ホーム訪問日記」を教材として。 ・「バスと赤ちゃん」(道徳読本掲載の中から)。 ・集団の中での自己の役割。 ・「本当のカッコよさ」とは(道徳読本「道しるべ」より)。 ・自分を伸ばす(道徳読本「自分をのばす」より)。 ・「箱の中の鉛筆」(道徳の副読本より)。 				

- ・「関係ないという言葉」（道徳読本より）。
- ・「発車オーライ」他人の気持ちになって考えよう（道徳読本より）。
- ・「トマトとメロン」個性を伸ばし充実した生き方を追求する（「相田みつお」詩集より）。
- ・あなたは大人？それとも子ども？（「あなたに関わる経済と法律」－自身に一ヶ月かかるおおよその費用はどれくらいか？－）。
- ・「迷惑」とは何か。
- ・「大切なもの」というタイトルでの授業。
- ・自身の中学校時代の体験を教材として。
- ・部活動における自分の体験談を教材として。
- ・「高い買い物」という道徳読本の教材を取り上げて。
- ・「ディズニーランドのそうじ係」（道徳読本より）。 等

※中学校で実習を行った人数 2011 年度・・・18 2012 年度・・・16 計 34

7 ホームルーム（ロングの学級会活動）や「総合的な学習の時間」等で指導した内容について

- ・係りや役割分担等を決めた。
- ・進路について。高校時代の進路決定、大学生活、就活等。
- ・大学生活について。
- ・ドッチボール。
- ・修学旅行のしおりづくり。
- ・体育祭の練習。等

8 部活動やサークル(同好会)等に関して一番印象に残っているのはどのようなことか

- ・部活動のあり方。
- ・部活動の壮行会。
- ・吹奏楽部の練習に参加したこと。
- ・吹奏楽部と演劇部の発表を見たこと。
- ・それぞれの部活動での厳しい朝練の様子。
- ・規則の厳しい部活指導（吹奏楽部）。
- ・ジャズ部と合唱部の激しい練習。
- ・音楽部コンサートへの参加。
- ・震災の影響で終電が早いとため、最後まで練習に参加できる生徒は半分くらい。いかに集中して合唱のハーモニーをつくるか、先生も生徒も懸命だった。
- ・楽しんで参加している部活動。
- ・状態の悪い楽器が多いため金管に限り手入れをしたら音が全然違うと感激して、とてもやる気を出してくれたこと。
- ・一言のアドバイスを生徒が日毎にどんどんうまくなっていく姿に感動した。短い間だが力になれてよかったと思った。

・トロンボーンのパート練を一緒にすることで、演奏に対するさまざまな悩みを聞くことができ、部活動はどれも印象的。 等

II 「音楽科」の授業について

1 「音楽」の授業を行った校種の授業コマ数

表3

校種 コマ数等	中学校	高等学校
平均授業コマ数	12.4 コマ	12.2 コマ
最多授業コマ数	32.0 コマ	29.0 コマ
最少授業コマ数	3.0 コマ	4.0 コマ

※1コマの授業時間は45分もしくは50分

2 「音楽」の授業で一番印象に残っているのはどのようなことか。

- ・生徒の集中力が15分以上は続かない。
- ・クラスごとにあった指導をしなければならない大変さ。
- ・クラスによってやる気や力の差が激しい。
クラスの雰囲気馴染むのに苦労した。
- ・生徒が指導した歌を口ずさみながら廊下を歩いている姿を見たとき。
- ・珍回答や迷回答に考えさせられた。
- ・学年による差が激しい。
- ・伴奏をアレンジしたらめっちゃくちゃ分かりやすいといわれたこと。
- ・生徒たちから「楽しかった」というコメントをもらえたこと。
- ・話し合い活動をさせるとき、「何をどんな風に考えるのか」をうまく伝えられず、指導の難しさを感じた。
- ・学年や学級によって大きくカラーが違う。
- ・教えたことを一生懸命忠実に表現してくれる生徒もいるので、身が引き締まる思いがした。
- ・その子の能力を最大限に伸ばせるような授業をしなければと思った。
- ・生徒間での能力差を小さくするような授業ができたと感じた。
- ・3年生の授業で、なかなか関心を持ってもらえず形の崩れた授業になってしまった。
- ・何人かの音楽が好きな生徒に楽しんでもらえたときわかったとき救われた気がした。
- ・7月の暑い中での授業で、いかに集中させるか大変だった。
- ・落ち着いて座っている生徒が少なかった。
- ・音楽鑑賞の授業で実際に楽器を吹いたこと。
- ・自分が指導したことで日に日に上達していくので、とても驚いた。中学生に吸収力は素晴らしい。

※3、4については、A・・・よくできた、B・・・できた、C・・・努力が必要で記入

3 学習指導（授業前）について

項目	回答割合(人数)	A	B	C
①題材の目標や生徒の実態等をふまえ、創意・工夫した授業準備ができた。（授業構想、指導案等）		44.8% (26)	51.7% (30)	3.4% (2)
②フラッシュカードやワークシート、拡大譜等の準備ができた。		72.4% (42)	20.7% (12)	6.9% (4)

4 学習指導（授業後）について

項目	回答割合(人数)	A	B	C
①1時間のねらいを明確にした授業ができた。		24.1% (14)	63.8% (37)	12.1% (7)
②準備した教材、教具（拡大譜等）を有効に使用することができた。		60.3% (35)	36.2% (21)	3.4% (2)
③生徒の反応を生かし、生徒の活動を大切にしたい授業をすすめることができた。		48.3% (28)	48.3% (28)	3.4% (2)
⑤発問や板書が学習に有効に働くよう工夫できた。		41.4% (24)	46.6% (27)	12.1% (7)

5 教育実習期間中「研究授業」以外で取り組んだ教材

校種 分野等	中学校	高等学校
① 歌 唱 教 材	「帰れソレントへ」（5） 「エーデルワイス」（4）「Let's Search For Tomorrow」（3）「夏の思い出」（2） 「パフ」（2）「浜辺の歌」（2） 「COSMOS」（2）「サンタルチア」（2） 「夢の世界を」（2） 「大地讃頌」「翼をください」「心の中にきらめいて」「この星に生まれて」「マイバラード」「この地球のどこかで」「トゥナイト」「明日という日」「フェニックス」「名づけられた葉」「虹」「落葉松」「ハレルヤコーラス」「あなたに」	「上を向いて歩こう」（2）「ふるさと」「花」「浜辺の歌」「COSMOS」「涙そうそう」「ホールニューワールド」「世界に1つだけの花」「Voi che sapete」「野ばら」「少年時代」「ムーンリバー」「Caro mio ben」「Gia il sole dal Gange」「sebben crudele」「An die music」「O sole mio」「アラジンメドレー」「茜色の約束」「春に」「風になりたい」「トゥナイト」「翼をください」「少年時代」「ビリーヴ」「世界に1つだけの花」
② 鑑 賞 教 材	歌曲「魔王」（4）「ブルバ」（4） 「交響曲 第5番運命」（4）「春：ビヴァルディ」（3） 「小フーガ ト短調」（2） 歌劇「アイーダ」（2）「展覧会の絵」「越	「トッカータとフーガ ニ短調」歌劇「アイーダ」「枯葉」「交響曲 40番：モーツァルト」「美しき青きドナウ」

	天楽」「映画音楽について」	「トッカータとフーガ ニ短調」歌劇「アイーダ」「枯葉」「交響曲 40 番：モーツァルト」「美しき青きドナウ」
③歌唱・鑑賞以外	「喜びの歌」(2)「かっこう」	「涙そうそう」

※() 内の数字は人数を示す

④ 研究授業の際の教材（曲名等）

<p>【中学校・歌唱】</p> <p>「夏の日の贈りもの」(3)「帰れソレントへ」(2)「浜辺の歌」(2)「赤とんぼ」「夏の思い出」「エーデルワイス」「ドナドナ」「朝の風に」「パフ」「サンタルチア」「マイバラード」「この星に生まれて」「少年時代」「心の中にきらめいて」「Let's Search For Tomorrow」「COSMOS」「大地讃頌」「落葉松」「信じる」「親知らず子知らず」「火の山の子守歌」「蒼鶯」「桜散る頃ー僕たちの Last Songー」</p> <p>【高等学校・歌唱】</p> <p>「calo mio ben」(4)「世界に1つだけの花」(2)「花」「浜辺の歌」「少年時代」「涙そうそう」「野ばら」「O sole mio」「世界に1つだけの花」「風になりたい」「トゥナイト」「An die music」「Amazing Grace」「Yesterday Once More」</p> <p>【中学校・鑑賞】</p> <p>・「魔王」(2)、「ブルタバ」</p> <p>【高等学校・鑑賞】</p> <p>・「惑星より“木星”」「ブルタバ」「トッカータとフーガ ニ短調」「イタリア協奏曲」</p> <p>【中学校・器楽】</p> <p>「エーデルワイス」</p> <p>【高等学校・器楽】</p> <p>「涙そうそう」</p>

※() 内の数字は人数を示す

⑤ 研究授業の自己評価

回答	ア 成功だった	イ まあまあ成功	ウ やや不満	エ やり直したい
割合(人数)	22.4% (13)	56.9% (33)	13.8% (8)	6.9% (4)

※() 内の数字は人数を示す

6 教育実習を終えて、教育実習に行くまでに、もっと勉強しておくべきだったと思う事柄はどのようなものか。

【2011 年度】	【2012 年度】
<p>1 音楽実技に関する事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ伴奏・弾き歌いの力（9） ・声楽・発声法（2） ・ギター、リコーダーの奏法等（2） ・歌唱指導の具体的なメソッド ・吹奏楽に関する知識 <p>2 学習指導案に関する事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領（音楽・道徳）（3） ・地元の指導案の書き方 <p>3 授業全般に関する事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究（2） ・人前に立って話をすることに慣れておく（2） ・授業の中での発問の仕方 ・話術 ・専門以外のピアノや芸術など、全般的なことをもっと興味をもって勉強するべきだった ・クラシック以外の音楽 ・コミュニケーション能力 ・模擬授業を何度もやっておきたかった。 ・荒れている生徒への注意の仕方、言葉掛等の対応法 	<p>1 音楽実技に関する事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弾き歌い、ピアノ等の技術的なこと（8） ・レパートリー曲の保持（2） ・パート練習、音取りの仕方 ・J p o p（嵐・EXILE・KARA）等の曲 ・歌唱 <p>2 学習指導案に関する事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業についての細かいこと（4） <p>3 授業全般に関する事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究（8） ・生徒の関心のある話題、受験情報（6） ・言葉遣い、敬語、語彙力（3） ・声かけのバリエーション（2） ・板書・中学生の気持ちの捉え方、ほめ方、叱り方 ・体力・精神力 ・学校の状況

※() 内の数字は人数を示す

7 教育実習へ行く前と行った後とでは教職に対する意識はどのように変わったか。

【2011 年度】 (中学校)	【2012 年度】 (中学校)
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽という専門の教科以外に費やす時間が圧倒的に多いことが分かった。（7） ・生徒指導ができないと授業が崩壊する。 ・やりがいのある仕事だと再認識できた。（7） ・大変だと思ったが、益々教師になりたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・いかに厳しく、大変かということを学んだが、とてもやり甲斐のある仕事なのだという事も分かった。（11） ・音楽以外の所での関わりも大きく、ふれあいの中で互いに成長できる仕事だと感じた。

<p>という気持ちが強くなった。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライベートと仕事を分けできると思っていたが、プライベートな時間が少なく、苦勞が絶えないと思った。(2) ・生徒の成長を実感できる。 ・自分自身が成長できた。 ・教員になりたいと思っていたが、先生方の大変な様子をたくさん見たので、進路については考えたい。 <p>(高等学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変だと思っていたが、大変な分、大きなやりがいがつらいことを支えるとわかった。(2) ・単に授業をこなすということだけでは勤まらない。生徒理解、生徒指導をどうやっていくのかということが大切だと思った(2) ・生徒に何を気付かせたいのか、何を学んでほしいかがわかるような授業、生徒主体の授業づくりが大切だとわかった。 ・教師の責任・責務を強く考えさせられた。 ・軽々しく教師になりたいなどと言うものではないと思った。 ・一生を捧げる覚悟が必要だと思った。 ・正直言って教師という職業にあまり魅力を感じていなかったが、生徒との会話が毎日楽しみだったので、職業観が一変した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見えないところでの仕事が大変。 ・生徒は実習生を先生として見てくるから責任感が強くなった。 ・心底好きとかやり甲斐を感じないとできない仕事だと分かった。 ・少し中学生が好きになった。非常勤ならやれるかもと思った。 ・仕事の多さに驚いた。 ・適職だという思いが強くなった。 <p>(高等学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれに専門があるが、何よりも生徒の抱える問題等に関わる時間が圧倒的に多く、それが教師の仕事だと思った(2) ・郷里・母校で教職に就きたいという気持ちが強くなった(2) ・教師は学校を一步出たら見られているという気持ちをもたなくてはいけないと思った。 ・他人の人生の一コマに関わる大切な仕事。生半可な気持ちではなれないと思った。 ・漠然と大変だと思っていたが、何が大変なのかということを実感した。 ・自分はとても先生にはなれないと思っていたが、生徒のために何かしらしたいという気持ちが湧いてきた。 ・音楽を極めたいのなら教職を選ぶべきではないと感じた。 ・生徒に対する先生の愛情の深さ。
---	--

※() 内の数字は人数を示す

8 後輩たちへのメッセージ

【音楽科授業に関する内容】

- ・教材研究はできる限りしっかりやっておいた方がよい。(6)
- ・歌が苦手な人、声の小さい人はピアノ伴奏に負けないくらいの声で日頃から練習しておいた方がよい。
- ・ピアノ伴奏は、弾きながら生徒の様子が観察ができるくらいにしておかないと役に立たない。

- ・思ったより実習は楽しい。よく通る声で話す・歌う練習をして下さい。
- ・ピアノ伴奏を間違えるとそれだけで妙な空気が流れる。苦手な人は早いうちからきちんとやっておいた方がよい。
- ・早い段階から指導案作成、授業計画、資料準備をしておくことがスムーズな流れで授業を進めていけるポイントです。
- ・音楽の授業がしっかりできないと学校が荒れていくのがわかると思います。
- ・大学での模擬授業は貴重な機会なので、本気で指導案を練り、本気で模擬授業するとよいと思う。
- ・教科教育法での模擬授業指導案はすべて保存しておくとお実習に行った際、アレンジがきくと思う。
- ・実習中はほとんど自分の時間が取れないので、教材研究、資料などの準備も完璧にしておいた方がよい。

【音楽科以外の授業に関する内容】

- ・実習日誌はこまめにきちんと書くべき。
- ・音楽だけでなく、道徳や特活についてもしっかり勉強しておいた方がよい。
- ・大学での教職に関する勉強を大切にしてください。
- ・実習に行く前の事前打ち合わせの際にどんな授業の様子なのか、何をさせてもらえるのか等を聞き、準備した方がよい。

【生徒指導・生徒理解に関する内容】

- ・自ら積極的に生徒とコミュニケーションを図るように努力すべき。(8)
- ・どんな生徒でもかわいい一面があるので頑張ってほしい。(4)
- ・緊張の連続なので体調管理が何よりも大切、今から体調管理をしてほしい。
- ・予想以上に生徒は、好意的に実習生をみている。(4)
- ・性格のかわいい生徒が多いので、人生の先輩として何をしてあげられるのか考えて実習に臨んで下さい。
- ・一番大切なことは生徒の心をつかむことだと思います。
- ・生徒とのふれあいが大切。(3)
- ・生徒と仲よくなれることが楽しい授業づくりにつながると思う。
- ・生徒一人ひとりのレベルをみて臨機応変に指導できる力が必要だと思う。

【実習生のメンタルな部分に関する内容】

- ・一生懸命な姿を見せれば必ず生徒はついてきてくれると思う。(7)
- ・あきらめないで。
- ・実習は教職としてだけでなく人間として学べるがたくさんある。
- ・くじけてもあきらめずに次に取り組む姿勢が大切だと思う。
- ・疲れていても笑顔で明るく接することを忘れないでください。
- ・大学では学べないことがたくさん学べる貴重な期間です。是非楽しんで実習してきてください。

- ・一番大切なことは「謙虚な気持ち」だと思います。謙虚に向き合う姿勢なしにはよい人間関係は作れない。
- ・努力を忘れなければ先生方も生徒も助けてくれる。楽な仕事など存在しない。
- ・実習に行くことで自分自身大きく成長できると思う。
- ・一番大切なのは人柄だと思う。元気に明るい性格だと生徒にも先生方にも好印象です。
- ・ずっと教師になりたいと思っていた自分ですら「もうやめたい」と思ったが、得るものも大きいので、本気で取り組んで下さい。
- ・様々な幅広い知識を身に付け、自分の技術を磨いて実習に臨んでください。
- ・学校現場は、勉強を教えるだけでなく、生徒の人間性を育てる場でもあるので、大学での友人、先生方との関わり、音楽以外での経験も必ず自分の糧になると思う。

※() 内の数字は人数を示す

Ⅲ 教育実習期間中の生活全般を振り返って

1 学校へ出勤した時刻は、おおむね次のどれに当てはまりますか。					
時 間	ア 7時半～7時45分の間	イ 7時45分～8時の間	ウ 8時～8時15分の間	エ その他	
割合(人数)	50.0% (29)	29.3% (17)	3.4% (2)	17.2% (10)	
2 その日の勤務を終え、学校を出た時刻は、おおむね次のどれに当てはまりますか。					
時 間	ア 17時半～18時の間	イ 18時～18時半の間	ウ 18時半～19時の間	エ 19時～19時半の間	エ その他
割合(人数)	3.4% (2)	10.3% (6)	25.9% (15)	29.3% (17)	31.0% (18)
3 実習期間中の睡眠時間について、おおむね次のどれに当てはまりますか。					
時 間	ア 9時間～10時間	イ 7時間～8時間	ウ 5時間～6時間	エ その他	
割合(人数)	0.0% (0)	5.2% (3)	51.7% (30)	43.1% (25)	
4 通勤について、次の①、②について答えて下さい。					
① 通勤手段は主に何でしたか。 徒歩・バス・電車・家人による送迎 等					
② 通勤時間は、おおむね次のどれに当てはまりますか。					
時 間	ア 30分以内		イ 30分～1時間		ウ その他
割合(人数)	63.8% (37)		24.1% (14)		12.1% (7)
5 教育実習日誌の作成は主にどこで行いましたか。					
時 間	ア 勤務先の学校		イ 自宅		ウ その他
割合(人数)	89.7% (52)		5.2% (3)		5.2% (3)

6 教育実習日誌を書くのにかった時間は、トータル次のどれに当てはまりますか。					
時 間	ア 30分以内	イ 30分～1時間	ウ 1時間～1時間半	エ その他	
割合(人数)	1.7% (1)	37.9% (22)	53.4% (31)	6.9% (4)	
7 その日書き上げた教育実習日誌は担当の先生にいつ提出しましたか。					
時 間	ア その日の夕方	イ その日の夜	ウ 明るる朝	エ その他	
割合(人数)	44.8% (26)	31.0% (18)	15.5% (9)	8.6% (5)	
8 研究授業の学習指導案作成にかかった時間は、トータルで次のどれに当てはまりますか。					
時 間	ア 1時間～1時間半	イ 1時間半～2時間	ウ 2時間～2時間半	イ 2時間半～3時間	オ その他
割合(人数)	1.7% (1)	3.4% (2)	6.9% (4)	50.0% (29)	37.9% (22)
9 研究授業の学習指導案は、指導の先生にいつ提出しましたか。					
時 間	ア 研究授業前日の昼	イ 研究授業前日の夕方	ウ 研究授業前日の夜	イ 当日の朝	オ その他
割合(人数)	31.0% (18)	43.1% (25)	12.1% (7)	12.1% (7)	1.7% (1)

5 考察

5. 1 「教育実習振り返りシート」I の1について

「①教育実習の予想」では、「大変だった」と回答した学生が約7割、「ふつう」と回答した学生が約2割、「楽だった」と回答した学生は約1割に満たなかった。まず、「大変だった」との回答理由を大まかに「音楽に関する内容」と「音楽以外に関しての内容」の2つに分類した。「音楽に関する内容」としては、音楽科の授業構築についての大変さを記述している。具体的には、指導技術力の不足やピアノ・声楽といった自身の実技力についての心許なさを述べている学生が多い。「音楽以外に関しての内容」としては、専門教科以外に費やす時間の多さや生徒指導上の課題を述べている。次いで、「ふつう」と回答した学生の回答内容としては、複数クラスを指導する場合の授業内容のリピートの容易さ、落ち着いた校風といったことが授業に及ぼす影響についてである。「楽だった」と回答した理由として注目したいのは、音楽科の実習生が4人おり、教育実習期間中の授業に関する諸事をこの4人で相談したりあるいは分担したりして進めることができたというものである。指導教官を唯一心頼みとして実習期間中1人で乗り切る大変さに比べ、同一教科の実習生が複数いることで、様々なアイデアを出し合ったり批評しあったりすることが可能であり、教育実習を楽しく進めることができた様子が分かる。

「②教育実習は楽しかったか」では、約8割の学生が「楽しかった」と回答している。この項目の回答についても「音楽に関して」の内容と「音楽以外に関して」の内容に分類することができる。楽しかった理由としては、音楽の授業もさることながら生徒とのコミュニケーションやふれあいについて述べている学生が圧倒的に多く、次いで「ふつう」と回答した学生が約2割、「楽しくなかった」と回答した学生が1人だった。「ふつう」の回答理由につい

では、あらかじめ教育実習の大変さを予測していたり、生徒への指導がスムーズにいかなかったりしたことを述べている。「楽しくなかった」の回答理由について、分かりづらかったの
で直に聞き取りを行ったが普段から文章を書くことが苦手なこと、推敲にとっても時間がかかる
こと等を述べている。

5. 2 「教育実習振り返りシート」I の2～5について

I の2～5の項目は、「2 自身の教育実習態度」「3 生徒理解」「4 生徒指導」「5 自己啓発」「6
道徳指導」「7 ホームルーム指導」「8 部活動・サークル活動」の8項目である。これらの項
目については、特に注目すべき数値の考察について述べる。

「2 自身の教育実習態度について ②指導者として適切な言葉遣いできた」では、「よく
できた」と回答した学生(32.8%)より単に「できた」と回答した学生(58.6%)が上回っている。
実習生は、様々な場面での指導の際、言葉を吟味し、注意を払って、あいさつや声掛け等を
していることが予想される。しかし、どこまで正しい言葉遣いだったのか、本当に自分の言
葉遣いは正しいのだろうかというような疑問を、指導後の自身に感じているようである。そ
の結果が「よくできた」ではなく「できた」の58.6%につながったものとも思われる。

「3 生徒理解について ④そのときどきの状況や生徒の状態等を判断し、適切に対応でき
た」について「よくできた」と回答した学生は 34.5%、対して「できた」と回答した学生が
58.6%とBの回答がやはりAを上回っている。このことについては、次の「4 生徒指導につ
いて」という項目とも密接に関連してくるよう思われるので、まとめた考察を述べたい。

「4 生徒指導について ②朝の会、終わりの会等で、適切な指導ができた」について、「よ
くできた」と回答した学生が43.1%に対して、「できた」と回答した学生が55.2%、同じく「4
生徒指導について ③週目標や一日のめあて等を考慮して生徒指導に取り組むことができ
た」についても「よくできた」と回答した学生が 29.3%に対して「できた」と回答した学生
が60.3%とBの回答がAを上回っている。「努力が必要」と回答した学生が約1割いる。通常、
朝の会、終わりの会等では、担任からの事務的な連絡(例えば持ち物や保護者等への連絡、
案内等)が多いことは確かだが、学級の一日の様々な出来事を振り返り、担任がミニ講話を
したり訓話的内容の話をしたりすることも多く、生活指導や生徒指導等多岐に渡っている。
そのため、それほど学級に馴染んでいない学生にとって、生徒一人ひとりの実態を把握し、
個々に応じた指導やその時々に応じた全体指導をしなければならないこれらの事柄について
は、戸惑いや迷いが多かったものと思われる。

5. 3 「教育実習振り返りシート」I の6～8について

I の6～8の項目は、「6 道徳指導」「7 ホームルームや総合的な学習の時間について」「8
部活動やサークル活動」である。

「6 道徳の授業について」では、中学校に教育実習に赴いた34名の学生のうち、19名が道
徳授業を行っている。割合は5割強ということになる。指導内容は、道徳の副読本に掲載さ
れている読み物資料等を教材として取り上げて授業展開した学生と、学生本人の進路選択や
中学校時代の体験を基にして授業展開した学生に分かれる。

「7 ホームルームや総合的な学習の時間について」では、学級内での役割や仕事の分担、進路に関しての指導、ドッチボール等のレクリエーション等、多岐に渡っている。

「8 部活動やサークル活動」については、学生の取得免許科目とも大きく関わってくるが、吹奏楽部や音楽部での活動内容について言及している学生が多い。記述内容としては、中学校や高等学校における部活動の熱心さ、大震災等地域が抱える困難な状況下での部活動の在り方等、考えさせられる課題が多く存在している。

5. 4 「教育実習振り返りシート」IIの1～4について

IIの1～4の項目は、「1 音楽の授業を行った授業コマ数」「2 音楽の授業で一番印象に残っていること」「3 学習指導（授業前）」「4 学習指導（授業後）」である。

「1 音楽の授業を行った授業コマ数」をみると、中学校、高等学校ともに約 12 コマであることがわかる。ただ、実習期間中の最多のコマ数と最少のコマ数をみると、学生によりその差にかなりの開きがある。

「2 音楽の授業で一番印象に残っていること」では、学年やクラスによりカラーの違う雰囲気を感じた上で、それぞれのクラスに見合った指導をすることの大変さや同じ教材を取り扱っても単純にリピートできない難しさ等を述べている学生が多いが、指導した内容が確実に生徒たちの身に付いていると感じられた時の喜びや手応えに対する記述も多く見られる。

「3 学習指導（授業前）」の①②及び「4 学習指導（授業後）」の①～④は、いずれの項目についても「よくできた」「できた」の回答が約 9 割～10 割であった。

5. 5 「教育実習振り返りシート」IIの5について

IIの5①～⑤については、校種別の音楽科授業における「①歌唱教材」「②鑑賞教材」「③歌唱・鑑賞教材以外」「④研究授業教材」である。

「①歌唱教材」であるが、中学校では「帰れソレントへ」「エーデルワイス」「Let's Search For Tomorrow」に取り組んだ学生が多い。これら 3 曲は歌唱共通教材ではないが、いずれも中学校の教科書に掲載されている曲であり、中学校ではずいぶん以前から愛唱されることの多い曲である。いっぽう高等学校では、「上を向いて歩こう」のみが複数で、他の曲での重なりがほとんどない。また、教科書にイタリア古典歌曲や英語の歌唱曲が多く掲載されていることもあり、これらを教材として授業した学生もいる。

「②鑑賞教材」では、中学校では「魔王」「ブルババ」「交響曲第 5 番 運命」「四季より“春”」に取り組んだ学生が多い。この 4 曲は、いずれもかつての鑑賞共通教材であり、現在もなお中学校で取り組まれる機会の多い曲である。いっぽう高等学校では、同一曲の複数取組がないばかりでなく、実習期間中に音楽鑑賞の授業に取り組んだ学生は大変少ない。

「③歌唱・鑑賞教材以外」の内容としては、アルトリコーダーを使用した器楽アンサンブルでの曲名を上げた学生が数名いるのみで、実習期間中に授業の中で器楽指導を行った事例もたいへん少なく、創作指導を行った学生は皆無の状態であることが分かった。

「④研究授業の際の教材名」を見ると、中学校、高等学校ともに研究授業で歌唱指導を行った学生が圧倒的に多く、それ以外の分野での教材を取り上げての授業はひじょうに少ない。

「⑤研究授業の自己評価」では、「ア成功だった」「イまあまあ成功」と回答した学生が約8割で、数値からは学生自身概ね満足 of いく授業展開であったことが伺える。

5. 6 「教育実習振り返りシート」Ⅱの6～8について

「Ⅱの6教育実習を終えて、教育実習に行くまでにもっと勉強しておくべきだった事柄」では、その回答内容から「1音楽実技に関する事柄」、「2学習指導案に関する事柄」、「3授業全般に関する事柄」の3点に分類することができた。

「1音楽実技に関する事柄」では、両年度ともピアノ伴奏や弾き歌いについての準備不足を述べている学生が複数いるほか、発声に関する課題、中・高校生向きの楽曲研究等についての準備不足を上げた学生がいる。「2学習指導案に関する事柄」では、音楽科や道徳の学習指導要領の理解や道徳授業における具体的な指導方法、教材研究等、事前の研究不足を上げた学生が多い。「3授業全般に関する事柄」では、年度により違いがみられるものの教材研究の大切さを上げた学生が多い。また、話術や生徒の気持ちのとらえ方、生徒の心のつかみ方といったメンタルな部分での指導の在り方を求めている回答が多い。

「Ⅱの7教育実習へ行く前と行った後で教職に対する意識はどう変わったか」では、中学校と高等学校の回答で若干の違いが見られるものの、自身の専門教科に費やす時間よりも生徒指導や他の仕事に費やさなければならない時間の方がはるかに多いことがわかったとの回答が多く、また、厳しい仕事ながらもやり甲斐や生き甲斐を感じた等の回答も多い。

「Ⅱの8後輩たちへのメッセージ」においては、「音楽科授業に関する内容」、「音楽科以外の授業に関する内容」、「生徒指導・生徒理解に関する内容」、「実習生のメンタルな部分に関する内容」に大別することができる。

「実習生のメンタルな部分に関する内容」についての回答は最も多く、ひたむきさや謙虚さ、真心で一生涯懸命取り組む姿勢等について述べている学生が多い。「音楽科授業に関する内容」では、教科の特性によるものか、教材研究の重要性や弾き歌い・ピアノ伴奏といった音楽科の技術面に関するメッセージが多い。「音楽科以外の授業に関する内容」では、他教科の指導に関することや教育実習に赴くまでにやっておきたい事柄について述べている。「生徒指導・生徒理解に関する内容」では、生徒とのコミュニケーションの重要性や触れ合いの大切さ、いかに接点を多く持つか等を述べている学生が多いことが分かる。

5. 7 「教育実習振り返りシート」Ⅲの1～9について

この項目については、教育実習期間中の学生たちの生活状況について尋ねるものであった。Ⅲの1が出勤時間、Ⅲの2が退勤の時間である。午前7時半～8時の間での出勤と回答した学生が全体の約8割と一番多く、退勤は午後6時半から7時半と回答した5割5分が一番多かった。教育実習期間中、学生たちはおおよそ12時間近くに渡って指導業務に携わらなければならなかったことになるが、現場の多くの教員もまたこのような過酷な勤務状態にあることが伺える。

Ⅲの3は睡眠時間に関してのものであるが、5～6時間と回答した学生が約5割、その他と回答した学生が約4割という結果であった。その他回答の内容を聞き取ったところ、5時

間に満たない睡眠時間の学生が多くいることが分かった。Ⅲの4①、②は通勤手段、通勤時間であるが、徒歩、バス、鉄道等を使用し、1時間以内で通勤した学生の割合が約9割と多かった。Ⅲの5～9の回答の数値の中では、Ⅲの8の学習指導案作成に2時間半以上かけた学生が約8割強いることが分かった。

6 本研究の成果と課題

本研究は、2011年度及び2012年度の本学科生の「教育実習振り返りシート」を考察し、教育実習の現況と課題を明らかにするとともに、音楽科教育法等における指導の今後について論じるものであった。

「振り返りシート」の内容結果とそれらに対する考察は、前項目4、5で述べているため、ここではそれらを踏まえた教科教育法等における今後の指導の方向性や指導内容の改善、課題等について述べる。

「振り返りシート」の記述内容や数値から、教育実習に対する学生たちの取組み姿勢は概ね良好であり、ひたむきに一生懸命取り組んだ様子が分かる。

しかし、「朝の会」や「終わりの会」等、場面場面での生徒たちの様子を観察し、その時の状況に応じて臨機応変に指導をするということについては、振り返りシート項目Ⅱの1～8の回答や数値に現れているような課題がある。

音楽科の授業については、例えば、振り返りシート項目Ⅱの6で、学生たちの回答の最も多かった「ピアノ伴奏や弾き歌い」の力不足、振り返りシート項目Ⅱの8の「教材研究の不足」等が課題となってくる。

本学科の教職課程履修者は、主に音楽科教育法Ⅲ及び音楽科教育法Ⅳで一人ずつ模擬授業に取り組む。これらの模擬授業に当たっては、十分教材研究を行うための期間や時間を事前に与え、数曲に集中した学習指導案作成や配付プリント、フラッシュカード等の作成、ピアノ伴奏や弾き歌い等の練習を行う。従って、迷走しているような授業や崩壊状態のような授業をする学生はほとんど見られない。むしろ最初からそつなく授業を行い、次なる段階の模擬授業では更に指導力や実技力が向上している学生が多い。

ところが教育実習では、生徒の様子に神経を集中させながら弾き歌いをしなければならなかったり、簡単なアレンジや創作を短時間でこなさなければならなかったり、初見での伴奏が即座に求められたりと、かなり応用的な指導力が求められていることが今回の調査研究から分かった。このことは、「早い段階から準備しておいた方がよかった」、「教材研究をもっとしておいた方がよい」といった回答からも伺うことができる。

しかし、応用的な指導力や臨機応変な指導といったようなものは、一朝一夕に身に付くものではなく、実際の教育現場で指導経験を積み重ね、試行錯誤等を繰り返しながら徐々に身に付けていくもののように思われる。歌ったり奏でたりといった活動が主となる音楽科の授業の場合、生徒が遭遇している状況を瞬時にとらえ、臨機応変な指導を行わなければならないことは多くあり、指導者自身が身に付けた確かな実技力がベースとなつての指導が多いことも頷ける。これらの力を身に付け、学生たちに自信をもって教育実習に向かわせるためには今後、教科教育法のみならず、他の教職に関する科目や教科に関する科目とタイアップし

た具体的な指導力向上プログラムといったものの作成や学生個々の進度に合わせた個別指導の徹底といったものが必要になってくるように思われる。また、事前に取り組みさせておきたい教材等については、振り返りシート項目Ⅱの5の結果を基に今後、シラバスの内容吟味を図っていききたい。

いっぽう、教育実習期間中の学生たちの生活状況については、実質 12 時間近く指導業務に携わらなければならない現実があったり、睡眠時間に関しても 5～6 時間と回答した学生が 5 割、その他と回答した学生 4 割の 5 時間に満たない睡眠時間という結果についても改善していくような方途を探っていききたい。通勤についての回答では、徒歩、バス、鉄道等を使用し、1 時間以内で通勤した学生の割合が約 9 割であったが、母校実習が認められない等、実習校が遠隔地になるケースも出てきており、このことについての課題は今後とも多くなることが予想される。

引用

- 1) 中央教育審議会答申 2006「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」文部科学省

参考文献

- (1) 山本文茂 1996「音楽科教育実習ここがポイント」音楽之友社
- (2) 船寄俊雄，無試験検定研究会 2005「近代日本中等教員養成に果たした私学の役割に関する歴史的研究」学文社
- (3) 中等科音楽教育研究会 2005「改訂新版 中等科音楽教育法」音楽之友社
- (4) 中等科音楽教育研究会 2009「最新 中等科音楽教育法」音楽之友社
- (5) 山崎英則 2004「教育実習完全ガイド」ミネルヴァ書房
- (6) 富江英俊・川島眞 2010「受け入れ校からみた教育実習の現状と課題」教師教育研究 第 23 号 P.85－93 全国私立大学教職課程研究連絡協議会
- (7) 教科用図書「中学音楽 1 音楽のおくりもの」（教育出版）平成 23 年検定
- (8) 教科用図書「中学音楽 2・3 上 音楽のおくりもの」（教育出版）平成 23 年検定
- (9) 教科用図書「中学音楽 2・3 下 音楽のおくりもの」（教育出版）平成 23 年検定
- (10) 教科用図書「中学生の音楽 1」（教育芸術社）平成 23 年検定
- (11) 教科用図書「中学生の音楽 2・3 上」（教育芸術社）平成 23 年検定
- (12) 教科用図書「中学生の音楽 2・3 下」（教育芸術社）平成 23 年検定
- (13) 教科用図書「MOUSA 1」（教育芸術社）平成 18 年検定
- (14) 教科用図書「高校生の音楽 1」（教育芸術社）平成 18 年検定
- (15) 教科用図書「改訂新版高校生の音楽 1」（音楽之友社）平成 18 年検定
- (16) 教科用図書「改訂新版高校の音楽 1」（音楽之友社）平成 18 年検定
- (17) 教科用図書「音楽 I 改訂版 Tutti」（教育出版）平成 18 年検定
- (18) 教科用図書「高校音楽 I 改訂版 MUSIC ATLAS」（教育出版）平成 18 年検定